

口と体の関係

近年、健康づくりへと変化しつつある歯科界ではお口と体の関係を一体のものとして見つめ直そうという動きがあります。

お口を体の一器管として把握し、医科と歯科の共通意識として体全体の健康を考えることで、様々な病気の治療が実現することとされます。

今月は、お口と体の関係について調べてみました◎

お口は全身の健康を保つための器官です

お口は食べ物の入り口であるとともに、多くの病原体の浸入口、体の異常を表すこともあります。お口の中の何らかの異常が**全身疾患に発展**することもあります！！
歯周病で炎症を起こした歯肉には多数の細菌が接しています。炎症を起こした歯肉と細菌が接している面積を全部合わせると、手のひら程の広さになるといわれています。



細菌や細菌の成分が血管の中に流れ込むと・・・



お口から気管を通して肺に入り込むと、肺炎を引き起こします（誤嚥性肺炎）

血液中に入り込んだ細菌が血管壁に感染すると動脈硬化症や冠動脈疾患など血管内がつまってしまう事もあります

お口の細菌が原因で作られた物質が糖尿病に影響を与えます
（血糖中の糖の濃度をコントロールする働きを阻害します）

歯周病原菌の成分の内毒素が低体重児出産の原因の一つになります

